

東日本大震災10年の 気仙沼から



ひかり新聞

共生共助の社会をめざす

2021.5.31
No.42

一般社団法人
ひかりプロジェクト

あの震災からもう10年、まだ10年。

被災当初は、この世のモノとは思えない景色のなかで無力感を持ちながらも、何ができるかを考え、仲間と議論しそして地元の方々と共に活動させていただいた。

復旧・復興は少しずつだが確実に進み、道路や橋、住宅建物などは整備され、真新しいモノが増えつつある。

工場や市場、商業施設が順次立ち上がり産業も復興してきた。しかし、道半ばのところも多い。

環境はどんどん変化していく。住宅、経済、人間関係…。

とりわけ社会的弱者の孤立や心の問題は簡単にはいかない。この変化が、みんなが明るくなる方向へ向かうことを願う。

昨年来のコロナ禍は、大きな壁となったが

これもやがて、人類の英知で乗り越えられるだろう。

私たちひかりプロジェクトはボランティア活動を通して

多くのこの変化に、微力ではあるが関わらせていただいた。

何よりも現地の人たちが希望に満ち、元気になってもらうことが私たちの喜びである。

写真は、気仙沼地域機構「気仙沼さま来てけらいんWEB」の

3月11日付ツイッターに掲載されたもの。

漁船を送り出す皆の元気な姿は、無事と豊漁を願う

大漁旗が青い海と空にたなびく。

気仙沼はどんなに苦しい時でも、だれでも温かく迎えてくれる。それは昔も今も変わらない。

ツイッターには、10年という時の経過と

ボランティア活動にきた人たちへの感謝がつづられている。

よくぞここまで、そして、どうぞここからも。

写真で見る被災地の今

東日本大震災からちょうど10年。それまではなかなか行く機会のなかった三陸海岸に、ボランティアとして20回近く足を運び、がれきの片付けや泥かき、また仮設住宅でのイベントに協力。そして、夏のドリームキャンプのスタッフとして、この10年、ささやかながらお手伝いしてきた。

昨年は新型コロナウイルスの影響で気仙沼大島でのドリームキャンプが延期され、約一年半ぶりに3月6日(土)7日(日)、ひかりプロジェクトの2名(藤原真久、大江靖)が訪問した。好天に恵まれ、宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、大船渡市を訪ねた。



3月6日12時、新幹線で、三陸への玄関口「一ノ関」に到着。レンタカーにて気仙沼へ向う。途中、北上川にかかる橋を渡る



午後2時、気仙沼でのボランティア活動の拠点として、多くの方々を受け入れてくださった金光教会に到着



気仙沼駅ではピカチュウがいつも明るく迎えてくれる



道の駅「かわかみ」にて休憩。震災以降、何度も利用させてもらった

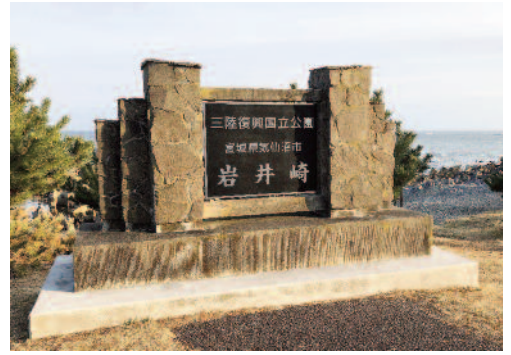


2019年3月10日(日)オープンした東日本大震災遺構・伝承館は、岩井崎にある。震災の記憶と教訓を伝える「目に見える証」として、遺構(気仙沼向洋高校旧校舎)は、被災直後の姿を保存、伝承館は映像や写真で被災の様子を伝えていく。



大江靖

「龍の松」や「潮吹岩」が太平洋を前に凜として、そして悠然と迎えてくれた



岩井崎は、気仙沼市の中心部から約10km南にある



ホテル一景閣の入口



クジラのオブジェ(左)がお出迎え

夕方、気仙沼に戻り、紫神社前商店街で中華料理を堪能した。
 宿泊は、**ホテル一景閣**。
 このホテルは、多くのボランティアの方々が清掃作業を行い、復旧・復興を支援させていただいた。



「河北新報」3月7日の朝刊

震災直後、周りはまだまだがれきの山で、それほど大きい建物ではないが、泥かきや拭き掃除も、どこまでやればいいのか、やってもやってもきりがないうように思えた。



横断橋に昇る朝日を、一景閣より臨む

しかし、少しずつきれいになっていくと、これこそが被災地の復旧・復興だと感じた。
 あれから10年。当時のことを思い出して感無量だった。
 ホテル一景閣は、今年創業105年を迎えられた。



平成23年3月11日 津波到達水位
 この高さまで津波がきた

ホテルを出て**気仙沼漁港**へ。北海道船籍他、多くの船が停泊し、さすが水揚げ全国10位を誇るだけのことはある。一景閣周辺にも、多くの水産関係の会社や工場が復活していた。



次に**安波山**に登り、気仙沼の市街地を一望する。

以前より建物の数は増えているが、ところどころにまだ更地がある。



高層の災害公営住宅が目につく

国道45号線を北上し、陸前高田市へ。津波で流された**気仙大橋**は、発災後121日目の2011年7月10日に仮設橋が開通して、仙台―青森間の太平洋側の国道45号線が全通した。その後、2018年12月に気仙大橋は本復旧した。



気仙大橋 脇には仮設橋の鉄骨が

橋を渡つてすぐ右手は**奇跡の一本松**。そばには全壊した**ユースホテル**が**震災遺構**として残っている。



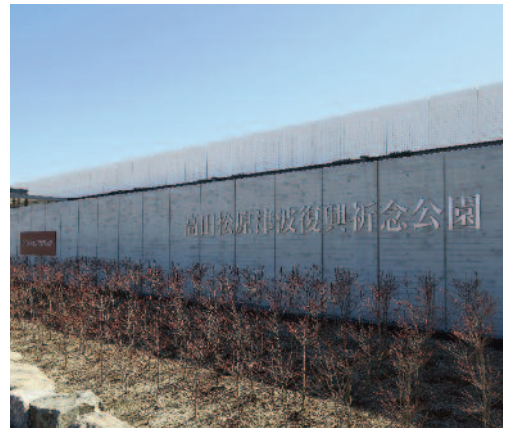
震災後、何度か陸前高田を訪れたが、国道を挟んだ左右の様子はすっかり変わってしまった。2、3年目頃は、松林がなくなった海岸では防潮堤を作る工事中で、近くの山からベルトコンベアで土を運び、町のかさ上げを行っていた。国道脇には献花台が置かれ、一本松までぬかるんだ道を歩いたものだ。現在、海岸と国道の間は、「高田松原津波復興祈念公園」「東日本大震災津波伝承館」として整備されている。



伝承館の開館まで時間があつたのでさらに北の**大船渡市碁石海岸**へ行く。



典型的な三陸のリアス式海岸で、展望台から望む周囲の奇岩や太平洋は素晴らしい。それでもつい、津波の時はどうだったんだろうと考えてしまう。



陸前高田に戻って、高田松原津波復興祈念公園にある、東日本大震災津波伝承館に入る。かなり広いスペースに、いくつかのゾーンに分かれて、東北の地と津波・地震について、最新のAV機器を用いて紹介している。

ゾーン①「歴史をひもとく」

古くは千年以上前の貞観津波をはじめ、繰り返し襲ってきた津波の歴史を当時の地層などを見せながら解説。



ゾーン②「事実を知る」

実写映像や津波の被害を受けた車、橋梁、被災者の声や様々な記録を見ながら、その脅威を目のあたりにする。

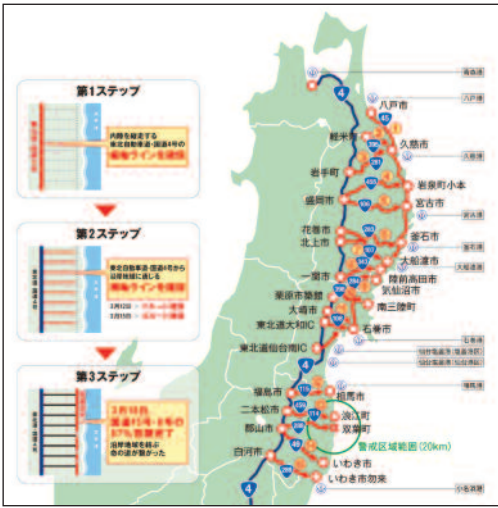
ゾーン③「教訓を学ぶ」

壁一面の多くのモニターに映し出される、震災当時の人々の行動、復旧に向けた様々な人々の取り組みを紹介しながら、命を守る教訓を学ぶ。

興味深く見たのは、津波直後の内陸部から海岸に向かう道路のがれき撤去のために取られた「くしの歯作戦」だ。東北自動車道と国道4号線から、くしの歯のように伸びた多くの国道を、救命・救援ルートとして確保する活動である。実に1週間後の3月18日には国道45号線の97%が通行可能になった。

4月の初めに気仙沼に車で入った際には、狭いけれども車一台だけ通れる状態になっていたのは、そういうことだったのかと、胸が熱くなった。

そのくしの歯作戦を第一線で指揮された方々のインタビューもあり、生々しくその頃を思い出した。



津波伝承館を出て、海岸に向かう

海岸一帯に盛土をされた防潮堤のほぼ中央に「献花台」が設置され、追悼・祈念施設の中心となっている。キラキラと輝く太平洋に向かって、亡くなられた方々の御霊様に祈りを捧げた。



防潮堤から海側には、松の苗木が植えられ、やがて何十年後には見事な松原を復活させてくれることだろう。



気仙沼へ戻るには三陸自動車道を通る。現在、仙台から岩手県宮古市までつながった。残りの岩手県北部の一部も今年中には開通予定で、仙台―八戸間を結ぶ。前日開通した気仙沼湾横断橋が近づくと、急に渋滞してノロノロ運転になる。この橋は復興のシンボルとして、地元の誇りなのかもしれない。



気仙沼の港へ向かう。

以前、大島へのフェリーボート乗り場は「PIER7」としやれた名前に変わり、周囲の建物も横文字が多く、港町という感じがする。



快晴の日曜日であったが、コロナ禍で外出が抑えられていることもあり、人出はそれほどでもない。
昨夜も、港町ではあまり人を見かけなかった。



棧橋 (PIER7) の周辺



ライトアップされた夜の棧橋



気仙沼湾ベイクルーズ遊覧船



元の3階建てに復元された男山本店店舗

駆け足の2日間だったが、気仙沼市と陸前高田市を中心に、あちこち見て回った。天候に恵まれて、昼間は寒さを感じることもなく、陽光にきらめく海を見ながら、「10年前に、あんな大変なことが起こったんだ」と感慨深いものがあった。

ボランティア活動、復興支援活動で震災直後から関わらせてもらったが、あの頃からは、見違えるほどの姿だ。

特に、気仙沼の伝承館、高田松原津波復興祈念公園などには、震災後の土地整備と、災害時の教訓、心構え、対処の仕方、そして、震災の記憶を風化させないための写真や映像が数多く残されていた。

今回訪問した所では、新しくできた道路や建造物は目を見張るばかりだが、今も更地のままとっている所も多い。

昨年来のコロナ禍で、観光や経済活動は停滞しているが、様々な立場の人たちの努力で、ここまでの復興が成し遂げられてきた。しかし、復興とは単に元に戻すことではなく、災害から立ち直る過程で、それ以前からあった諸課題の解決を図り、従来よりも質の高い状態にすることとされている。

次の世代に残す「魅力あるまち」づくりの努力が続くことを願うと共に、私たちが支援できることは何かを、地元の人たちと相談しながら協力していきたいと思いを新たにしたい。

5月17日から始まったNHK連続テレビ小説「おかえりモネ」は、宮城県気仙沼市や登米市を舞台にした物語です。

第2回オンライン防災講座開かれる

「災害発生のおそさを学ぶと共に、自分の命は自らが守る、共に助け合う」をテーマに開催

第2回オンライン防災講座が4月7日から5月19日まで、全17講座を毎週水曜日7回にわたって開催されました。今回は、受講生8名、講師・スタッフには新たに2名が加わり8名が参加。昨年の第1回のカリキュラムを見直し、講座数も5つ増えました。近年、地震・大雨・洪水・台風等による自然災害が激甚化し、防災への関心が高まっています。

この講座の目的は、災害発生時のメカニズムをまず知ること。万が一、被災しそうな時になった時、被災した際、どのように行動するかを学んでおくのも大きな目的です。

災害に対するハード対策は大事ですが、一市民としてはソフト対策、つまり防災を危機管理としてとらえ、柔軟に対応することが求められます。防災に関連するルールや法律も次々と変わっています。防災に関する様々な知識、情報、教訓を学んで、いざという時に備えておく必要があります。

講座終了後、受講生からは「専門的な分野をあらゆる角度から勉強できた」「日本は自然災害大国であることを改めて理解した」「テキストの内容も濃く、改めて読み直したい」などの声がありました。

受講された方々と共に、今後とも防災について学び、共に助け合う働きを取り組んでまいります。

竹灯ろうに火をともし、黙とう

移動図書館おあしす代表 橋本信一

2016年4月14日、16日の2回、震

度7の地震が発生した熊本県益城町。

震災関連死を含めて熊本県内では273人が亡くなり、発生から5年経た今でも仮設団地などで仮住まいをしている人は418人(2021年3月末時点)です。

熊本県益城町の木山仮設団地では、地震発生時刻に、竹灯ろうに火をともし、追悼行事を行っています。毎年多くの報道陣が取材に訪れ、テレビのニュースや新聞の紙面で紹介してくれていますので、ご覧になった方もおられると思います。

4月14日午後7時、仮設に住む住民の方々、すでに仮設を出て自宅を再建された方、災害公営住宅に転居された方々が集まってきました。



昨年7月豪雨の後がまだ生々しい球磨村のあちこち



木山仮設団地に暮らした人々が、球磨村の仮設団地に住む子どもたちにマスクをプレゼント



一人ひとり、それぞれの思いを込めて、火をつけます。

「生き残ったいのち、そのいのちを大切に、益城町の未来を築いていきたい」と女性の声。

「今日も肌寒いが、地震のときも同じように寒かった。ろうそくの火は温かい。地震の時は真っ暗だった。そのことを思い出した」と男性の方。

「友達が次々と仮設から転居していつて淋しいが、地震のことは忘れてはならないと思う」と中学生。

それぞれの思いが込められます。テレビのインタビューを受けていた男性は「心に負った傷は5年経っても消えることはないが、毎年、追悼行事に参加することで前を向いて歩く力を

もらっている」と答えていました。

毎回、竹を切り出し、さらに一節ごとに切り分けて並べるという作業を行います。たくさんの方々のご協力を頂いて、今回は約500本の竹灯ろうが用意できました。

地震発生時刻、私はいつも、家族を亡くされた方の姿を探します。そして、前向きに進んでもらいたいと願います。

多くの方々のお思いが詰まった追悼行事、今後も続けてまいりたいと願っています。

令和2年の豪雨災害地で支援活動

移動図書館「おあしす」と「スマイル子ども食堂」は、令和2年の豪雨で大きな被害が出た熊本県人吉市と球磨村で支援活動を行っています。

移動図書館のもとに「手作りマスクを水害の被災地に持って行ってもらいたい」との願い出がありました。

移動図書館は、地震の被災地と水害

の被災地の両方で活動を行っています。手作りマスクの申し出は、地震の被災地に住む方々からでした。「地震の時にお世話になったから」恩返ししたいから」ということでした。

水害の被災地の仮設団地には、小学生年代の子どもたちが多く暮らしています。そこで、子どもたちに人気があるアニメ「鬼滅の刃」の柄が入った生地を調達して、手作りマスクを作ることになりました。

丁寧な心をこめてマスクを作り、図書館開設日に水害の被災地に持って行き、大変喜んでいただきました。

保護者の方からは「うちは女の子なのでピンクの柄を頂きます。お友達にも、マスクが頂けることを伝えてもいいですか？喜ぶと思いますので」とおっしゃるので、「どうぞ、たくさんの方にお知らせください」と言うと、その後、大勢の子どもたちが集まってくれました。



青井阿蘇神社での復興イベントで模擬店を出店

「スマイル子ども食堂」も、水害の被災地で支援活動を行いました。
熊本県人吉市にある「国宝 青井阿蘇神社」。その境内で行われた復興イベントで、石焼き芋とたこ焼きの模擬店を出店し、多くの方に喜んでいただきました。石焼き芋もたこ焼きもそれぞれ100食用意しましたが、完売しました。



球磨村の仮設団地内集会所での移動図書館
この日は、子どもたちがいっぱい来ました

従来の警戒レベル3つあります。ポイントには3つあります。

警戒レベル	新たな避難情報等	これまでの避難情報等
5	<p>緊急安全確保※1</p> <p>避難指示(緊急)※2</p> <p>避難準備・高齢者等避難開始</p>	<p>災害発生情報(発生を確信したときに発令)</p> <p>避難指示(緊急)・避難勧告</p> <p>避難準備・高齢者等避難開始</p>
4	<p>避難指示※2</p> <p>高齢者等避難※3</p>	<p>避難指示(緊急)・避難勧告</p> <p>避難準備・高齢者等避難開始</p>
3	<p>高齢者等避難※3</p>	<p>避難準備・高齢者等避難開始</p>
2	<p>大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)</p>	<p>大雨・洪水・高潮注意報(気象庁)</p>
1	<p>早期注意情報(気象庁)</p>	<p>早期注意情報(気象庁)</p>

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5に引き上げられる場合は、避難指示(緊急)を発令することになります。
※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで緊急されることとなります。
※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じて避難の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

出典：内閣府(防災担当)・消防庁

避難情報が変更されました
5月20日から避難情報に関するガイドラインが変更され、避難行動を促す情報と私たちが取るべき行動との関係がより明確になりました。

防災「ロメモ」(第5回)



球磨村グラウンド仮設団地。「熊本型デフォルト」と呼ばれる。ゆとりがあり基礎はRC造の木造仮設

地震で被災された方々が、水害の被災者を支援するという活動が生まれています。そういう尊い気持ちに触れて、私もありがたい気持ちになります。今後、そうした心に寄り添う活動を求めていきたいと思っています。

このたびも、追悼行事や豪雨災害での活動に「ひかりプロジェクト」からの支援金を使わせていただきました。まことにありがとうございました。

たくさんの方が笑顔になる活動を、今後求めてまいります。引き続き、ご支援をお願いいたします。

警戒レベル5「災害発生情報」は、取るべき行動が分かりにくく、また市町村が災害発生を把握できずに発令できないことが多かった。そのため、災害が発生・切迫し、すでに避難場所等への避難が安全にできない場合、自宅や近隣の建物で緊急的に安全確保するよう促す情報として、警戒レベル5「緊急安全確保」とした。

警戒レベル3「避難準備・高齢者等避難開始」は、名称が長く、高齢者等に避難を求める情報であることが伝わりにくい。そのため、早期避難を促す対象を明確にするため警戒レベル3「高齢者等避難」にした。これには避難に時間を要する人や避難支援者が含まれる。

編集後記

▼東日本大震災から10年を目前に三陸を訪問しました。ホームページにも掲載していましたが、より多くの皆さまにご覧いただくこと「ひかり新聞」で特集しました。コロナが落ち着いたらぜひ現地に出發して、10年経った今を見ていただきたいと思っています。

▼第2回オンライン防災講座が終わりまりました。防災に関する様々な情報をもとにカリキュラムを組んでいます。災害の激甚化に伴い、追加情報が増えていきます。今年には梅雨入りが例年よりも早く、5月16日には東海地方まで梅雨入りしました。梅雨明けも早いと予想されますが、梅雨明け前の豪雨にご用心ください。

▼熊本地震5年目の支援活動には、藤原眞久、橋本敏廣が参加しました。現地では「おあしす」さんの活動支援や、昨年7月の球磨川氾濫の様子も確認してきました。今回、被災された地元の方々にはゆっくり話を聞くことができ、ボランティアの役割を再認識した次第です。

ひかりプロジェクトホームページの独自ドメインを取得し、URLが下記に変わりました。
<https://hikari-project.org>

ひかり新聞 No.42 2021年(令和3年)5月31日

発行者：一般社団法人 ひかりプロジェクト

〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口175

電話 0555-72-8191 FAX 0555-76-6696

<https://hikari-project.org> E-mail: hpa@road.ocn.ne.jp